ソーシャル・メディアと動員

—ハッシュタグ・アクティヴィズムからアセンブリへ—

五野井　郁夫
高千穂大学経営学部教授

はじめに
:インターネットと直接民主主義

今日、人々の直接民主主義的な行動はソーシャル・ネットワーキング・サービス(Social Networking Service：以下SNS)を活用し、国境のきわを越えて行われる。インターネットメディアの進展によって、参加者に情報共有とキャンペーンの普及はもちろん、実際のリアルな空間で行う抗議行動の際の徹底した非暴力のガイドラインの周知、そして参加者らによるネット上の情報のアップロードなどによって、参加者にとっての敷居を下げる「社会運動2.0」とでもいうべき新たな局面へと突入している[1]。

その原風景として思い起こされるのは、1997年にノーベル平和賞を受賞した地雷禁止国際キャンペーンの報道官だったジョディ・ウィリアムズや、2000年までに貧困国の債務削減を訴えたキャンペーンであるジュビリー2000の広報を務めたアン・ペティフォーが、ともに動員に活用したメディアとしてインターネットメディアを挙げている点であろう[2]。つまり、ネット上での呼びかけによって課題の社会的認知を促進させ、政治動員に結びつける手法を採用したのだった。この手法が、近年では情報通信技術（Information Communication Technology: 以下ICT）の進化に伴い、クラウド化した社会運動へとさらなる変容を遂げつつある。本稿ではこのネット上での社会運動の系譜とその来歴と現在、そして今後を展望してみたい。

ごのい　いくお
東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻修了。博士。専門分野は政治学・国際関係論。日本学術振興会特別研究員、立教大学法学部助教を経て、現職。
著書に『リベラル再起動のために』（毎日新聞出版、2016年、北田暁大、白井聡との共著）、『デモとはなにか 変容する直接民主主義』（NHK出版、2012年）など多数。

コレクティヴ・アクションから
コネクティヴ・アクションへ

人はどのようにして横につながり連帯し、動員されていくのか。社会運動をめぐる初期の研究は、社会構造上の要因から社会運動の発生について説明を試みていた[3]。資本主義社会の矛盾から労働運動の発生を説明し革命へと繋げるマルクス主義の立場や、急激な社会変動がもたらす構造的緊張や不満が人々を極端な行動に走らせる集合行動（collective behavior）などが、その主なものとして挙げられる[4]。

これらの説明は1970年代に登場した資源動員論によって大きく修正されていくことになる。資源動員論は、社会運動組織が活動するのに必要な人、カネ、ネットワークなどの具体的な資源を重視した[5]。マルクス主義が社会変革や革命の着火点としていた資本主義社会の矛盾や、社会の構造か

ら個々の運動を説明する集合行為論に対して資源動員論は、不満はどんな社会にもあるにせよ利用可能な資源を獲得してはじめて社会運動は生起するのだと説いたのだった[6]。

これにくわえて、1980年代には社会運動への参加を個人が運動体の認識枠組み・解釈枠組みに統合される過程と捉え、そのような認識と解釈の枠組みを作る試みとして、フレーミング理論（framing theory）が提案された[7]。社会の中に不満や運動体があるからといって、主体の中に自動的に運動の認識や解釈の枠組みができるわけではない。そこで、運動組織の資源やネットワークなどの構造のようなハードの面とは異なり、関心や目標、アイデンティティといったソフトの面に着眼し、事実を受け取る側の認識枠組みや解釈枠組みを重視するフレーミングという方法が重視されるようになった。

これらが欧州で資源動員論がアメリカで興隆した当時に、欧州で隆盛した「新しい社会運動論」とともに、社会運動の文化的側面に斬り込むこととなったのである。

従来の政治動員は、一定程度において合理的で選好の固定した個人からなる集団の協力関係を集合行為とみなし、選好が達成されるプロセスとその条件を説明する集合行為論や、資源動員論による潜在的支持者が構成員になっていくという小集団ネットワークによる選択的誘因を想定していた。

だが、ヒエラルキーを作らず権威主義的な性格を帯びないデジタル・メディアたるSNSにおける、個人の水平的かつ偶発的なつながりによって形成されるコネクティヴ・アクション（connective action）のような「社会運動2.0」とでもいうべき新たな動員手法が今日出来しつつある[8]。これらはウェブ署名からアノニマス（anonymous）やラルズセック（LulzSec）のようなサイバー攻撃を仕掛けるハクティビズムまで、さまざまなオンライン抗議は日々目にする光景でもある[9]。

このコネクティヴ・アクションからなる「社会運動2.0」は、マルクス主義のような階級ベースの理論に対して階級横断的な新しい社会運動論的な射程をもつが、他方で女性解放運動・環境保護運動・地域分権運動などにみられる左派的な特徴から浮かび上がるようなアイデンティティ重視でもない。というのも、近年のトランプ現象と軌を一にするレイシズムや極右の台頭も「社会運動2.0」の主要な現象のひとつだからである。

スラックティビズムから クリックティビズムへ

1990年代の情報通信技術の進化とともに登場した新たな政治的動員の手法は、既存の政党組織とは異なる人々の類縁集団（affinity group）を形成することに寄与し、のちにネット署名といった請願運動や、かつての80年代のライブ・エイドに着想を得たフェスを活用した動員やアドボカシーへと発展してゆくことになる[10]。だが、インターネットメディアでの動員を通じた運動の手法や悲壮感の薄いフェス的な運動は、Windows 95の普及に伴う1990年代後半の新たなITCインフラの普及と、それらによって可能となったニュー・メディアへのリテラシーに乏しかった旧来の社会運動家には、受け入れ難いものと映った。そして労力や負担を負うことをせずに社会運動めいたことをしようとする、怠け者たちの運動「スラックティビズム（slacktivism）」として批判されたのである[11]。

2000年代に入るとネット上で動員を行う手法は、ワンクリックで社会的活動に参加した気になる「クリックティビズム（clicktivism）」として、さらに非難の的となる。というのも2000年代に1700万人も会員数を獲得した環境保護アクションTckTckTckキャンペーンが、じつは大量生産大量消費によって環境破壊を助長している世界第6位の広告会社ハバス・ワールドワイド（Havas Worldwide）のプロジェクトのひとつであり、マーケティングと社会運動の区別がなくなっていたことが指摘されるなど、問題点が浮き彫りとなったためである[12]。

こうしたネット上でワンクリックしていいことをした気になっていても現実には世の中を良くすること

には必ずしも繋がらない点を、カナダのアクティヴィストであったカレ・ラースンが組織する反消費主義集団のアドバスターズ（Adbusters）は「クリックティビズムは社会運動を消費主義のロジックで汚染した」と評し、いかにしてネット上の動員手法を実際にリアルな空間での身体的な運動へと結びつけるのかを模索した[13]。のちに同団体は、マーケティングの手法ではないネット上と現実の空間を往還する社会運動として「ウォール街を占拠せよ（Occupy Wall Street）」をスローガンに掲げ、ニューヨークのズコッティ公園から世界中に広まったオキュパイ運動を展開したことでも知られる。

ハッシュタグ・アクティヴィズムの展開

こうしてネット上の社会運動でも広告会社等の思惑にはまることを回避しつつ、各人が簡単に社会的認知を起こさせることができる仕組みが模索され、生み出されるようになった。2007年ごろからツイッターユーザーたちの非公式グループ内で、ハッシュタグにかんする会話が交わされ、のちにハッシュタグを利用することで政治課題のシェアと共時性の担保、そして焦点化をおこなう「ハッシュタグ・アクティヴィズム（hashtag activism）」という新たな政治現象が、とくに2011年のオキュパイ運動を一つの分水嶺として見受けられるようになった[14]。世界中で圧政に抵抗する人々とそれを手助けしたい人々は、#arabspringのタグをつけて情報のシェアを行い、それぞれの身近な公共空間でデモや抗議行動、そして当時社会運動のレパートリーに加わったフラッシュ・モブなどを実行したのだった。

オキュパイ運動のなかで発展したハッシュタグ・アクティヴィズムは、ほどなくして人種差別問題でも活用された。2012年2月26日にフロリダ州で発生した自警団員の白人男性による黒人少年トレイボン・マーティンの射殺事件という、人種差別に基づくヘイトクライムに反対し正義の裁きを求めたキャンペーン「#JusticeforTrayvon」や、アジア系女性のメディア表象の差別性を糾弾した2013年の「#NotYourAsianSidekick」などがその例である。

また、2014年4月にテロリスト集団ボコ・ハラムが女子生徒240人を拉致したナイジェリア生徒拉致事件では、同事件に抗議するストリートでのデモ行動と連動して、いち早くツイッター上で「#BringBackOurGirls」というハッシュタグが作成された。このハッシュタグを掲げた画像をミシェル・オバマやマララ・ユスフザイら著名人が率先してSNSにアップすることで少女たちの奪還を訴えるキャンペーンを展開し、またたく間にネット上で彼女らの主張に賛同した人々による、広範な世界政治への参加が観察されることとなった。

このハッシュタグ・アクティヴィズムが最も強く影響力を持って近年の政治を変えたのは、2017年の#MeToo運動である。映画プロデューサーのハーヴィー・ワインスタインが数十年にわたって女優やスタッフにセクハラを続けてきたことを、女優のアシュレイ・ジャッドが実名で告発したことから始まった同運動は、現在でも男性に虐げられてきた女性たちを解放するものとして世界中に広まりつつある。2017年10月5日のニューヨーク・タイムズへの掲載を皮切りに50人以上の女優が名乗り出て告発し、SNS上で女優のアリッサ・ミラノが2017年10月15日に「Me too」とつぶやいたことがきっかけで「#MeToo（私も）」が生まれ、セクハラを告発し撲滅するムーブメントが発生した

「#TIMESUP（もう終わりにしよう）」のハッシュタグへの連帯のしるしとして、2018年1月7日のゴールデン・グローブ賞授賞式に出席した女優の全員が、抗議の意思表示で黒衣を着用した。報道したニューヨーク・タイムズと雑誌のニューヨーカーが2018年のピュリツァー賞を同時受賞し、2018年の下院議員選挙では民主党の勝利に同運動が貢献したことで、女性議員数は定数435中、過去最多の102人、有色人種の女性議員は過去最多の43人となった。

日本のハッシュタグ・アクティヴィズム

ハッシュタグ・アクティヴィズムは日本でも、選挙運動中や日々の政治のなかで、手軽な政治参加と

フレーミングの手段として今日大いに活用されている。近年でも自民党の石破茂議員が党内の引き締めのために「自民党何か感じ悪いよね」と思われてはまずいと発言したことが、そのままハッシュタグで「＃自民党感じ悪いよね」という自民党へのネガティブキャンペーンとなった。

他にも2015年の安保法案にかんする国会審議時には同法の憲法違反が指摘されるなか、「＃安倍政治を許さない」などのハッシュタグがツイッターやfacebookで多用された。のちに2016年には認可保育園などから子供の入所を断られた当事者らが「＃保育園落ちたの私だ」というタグを使用して訴え、3月5日には国会前で政府に対する抗議集会を開催した。この訴えは、実際に子どもの入園を断られたと経験を持つ母親ばかりではなく、保育園に入れた人、それどころか子どもを持たない人や未婚の男性までが、社会全体の問題だという意識のもと、立場の違いに関係なくタグを使用し路上に参加し、連帯を表明した。

くわえてアメリカを震源とした#MeToo運動は日本にも波及した。準強姦被害が行政によって握りつぶされたことを名乗り出たジャーナリストの伊藤詩織を取り上げたドキュメンタリー『Japan's Secret Shame（日本の秘められた恥）』がBBCで放映され、2018年4月に明るみになった財務省の福田前事務次官によるテレビ局の女性記者に対するセクハラ行為の報道で「#MeToo」運動が本格化した。4月28日には新宿アルタ前では「＃私は黙らない0428」という街宣行動が開催されたのだった。

今後の展望：ハッシュタグ・アクティヴィズムからアセンブリへ

これらのハッシュタグ・アクティヴィズムはすでに直接行動の一形態であり、かつて批判されたような安楽椅子に腰掛けてぬくぬくと暖かい部屋で行われているスラックティビズムではない。というのも、アラブの春から#MeToo運動まで、クラウド化した社会運動は現実の空間と地に足の付いた場(land)において、それもおもに公共空間に身体性を現場に持ってくることで、集会参加者の身体がその場に存在し、身体をかけて意思表示することで直接民主主義の合議体となるアセンブリ（Assembly）を出現させるからである[15]。

このように、インターネットメディアが日常化した現在、ハートとネグリが描いた〈帝国〉のような状況の出現したことを受けて、社会運動も既存の1.0から、SNSを通じてアドボカシーを行いアイデンティティ形成し、集会へと人々の身体の集合を促す「社会運動2.0」へと変化を遂げてきた。すなわち、誰もが情報発信できるということは、インターネットというインフラにアクセスできる空間であれば誰もが可能性の中心になり得るがゆえに、一国内の政治から国際政治まで一人のツイートがまたたく間に世界を変えることも可能なのである。

そして、それらの投稿をより迅速かつ広範に流布させるために使用するのがハッシュタグであるならば「ペンは剣より強し」ならぬ「ハッシュタグは剣よりも強し」という状況が、こんにち出来しつつあるのである[16]。■

《注》

1　新しい社会運動1．0の主要な系譜については、Ronald Inglehart（1977）*The Silent Revolution,* Princeton NJ: Princeton University Press. ; Alain Touraine（1978）*La Voix et le Regard : sociologie des mouvements sociaux*, Paris: ?ditions du Seuil; Alberto Melucci（1989）*Nomads of the Present: Social Movements and Individual Needs in Contemporary Society*, Philadelphia: Temple University Press. また、新しい「社会運動2.0」は以下を参照されたい。五野井郁夫『デモとは何か 変貌する直接民主主義』NHK出版、2012年

2　ジュビリー2000のキャンペーンは、国連のミレニアム開発目標策定に影響を与えるとともに、「Make Poverty History」キャンペーン（いわゆるホワイトバンド運動）とU2のボノらが2005年のグレンイーグルズサミットに合わせて開催したカウンターイベント「LIVE 8」に引き継がれた。

3　Crossley, Nick（2002）Making Sense of Social Movements. Buckingham & Philadelphia: Open University Press.; della Porta, Donatella and Mario Diani（1999）*Social Movements: An Introduction.* Oxford: Blackwell Publishers.

4　Turner, Ralph. H., & Killian, Lewis. M.（1957）*Collective behavior.* Oxford, England: Pren-

tice-Hall.; Smelser , Neil（1962）*Theory of Collective Behavior*. Published by Routledge & Kegan Paul, London.

5 McCarthy, John D.; Zald, Mayer N.（1973）*The Trends of Social Movements in America: Professionalization and Resource Mobilization.* Morristown, NJ: General Learning Press.; Tilly, Charles（1978）*From Mobilization to Revolution*. Reading, Mass.: Addison-Wesley.; McAdam, Doug（1999）. *Political process and the development of Black insurgency, 1930-1970*（Second edition）. Chicago and London: The University of Chicago Press. ; McAdam, Doug, Sidney Tarrow, and Charles Tilliy（1997）. "Toward an integrated perspective on social movements and revolution," in Mark Irving Lichbach and Alan S. Zuckerman（eds.）, *Comparative Politics: Rationality, Culture, and Structure*. New York: Cambridge University Press, pp.142-173.

6 裏を返せば、利用可能な資源へのアクセスを制限すれば社会運動は起きないため、この立場から中国共産党政府などは、中国国内において wikilpedia のようなリベラルなサイトや、twitter、facebook など「アラブの春」で着火点となった SNS を現在まで利用禁止としている。なお、香港特別行政区では一国二制度ゆえ SNS が利用可能だったことから一連の雨傘運動が生起し、雨傘運動でも中心的な役割を果たした黄之鋒の組織「学民思潮」は、2016 年に「香港衆志（Demosisto）」という政党を結成することで、リベラル政党の誕生の一助となった。https://www.demosisto.hk 2019 年 3 月 10 日閲覧 。

7 Snow, David A, Burke Rochford, Jr., Steven K. Worden, and Robert D. Benford,（1986）"Frame alignment process, micromobilization, and movement participation," *American Sociological Review*. Vol.51, Issue 4: 464-481.

8 こうしたサイバースペースでの連帯の思想については、Cameron , Andy and Barbrook, Richard (1995), "The Californian Ideology" , *Mute* ,Vol .1 #3 CODE, London: Mute ; Lance Bennett's & Alexandra Segerberg （2012）*The Logic of Connective Action Digital Media and the Personalization of Contentious Politics*, Cambridge: Cambridge University Press; Olson, Parmy (2012) *We are Anonymous: Inside the Hacker World of LulzSec, Anonymous, and the Global Cyber Insurgency.* Hachette: New York.

9 Kelly, Brian（2012）. "Investing in a Centralized Cybersecurity Infrastructure: Why 'Hacktivism' can and should influence cybersecurity reform". *Boston University Law Review* 92（5）: 1663?1710

10 属性の異なる者同士の「群れ」である類縁集団については、Donna Haraway（1991）*Simians, Cyborgs and Women: The Reinvention of Nature*, New York: Routledge, p.155. を参照。

11 スラックティビズム（slacktivism）とは、怠け者（slacker）＋社会運動（activism）という造語である。たとえば以下のような批判がある；Phan, Monty（2001）, "On the Net, "Slacktivism' / Do-gooders flood in-boxes", February 26, Newsday. Page. 08.

12 White, Micah M.（2010）"Clicktivism is ruining leftist activism", *The Guardian*, 12 August, 2019 年 3 月 10 日 閲 覧 。 http://www.theguardian.com/commentisfree/2010/aug/12/clicktivism-ruining-leftist-activism

13 White, Micah M.（2010）"Activism after Clicktivism How to energize the political left", *Adbusters,* 17 November. 2019 年 3 月 10 日閲覧。 https://www.adbusters.org/magazine/93/activism-after-clicktivism.html

14 ただし、オキュパイ運動のなかでは、震源地であるニューヨークのズコッティ公園付近で参加者が行ったツイートが、本人も気が付かないうちに元ツイートが消滅しているという現象がしばしば起き、筆者も実際に同公園付近で発したツイートが、フォロワーらにリツイートされたにもかかわらず、数件無断で削除されるという事態を経験した。Dewey, Caitlin（2014）, "#Bringbackourgirls, #Kony2012, and the complete, divisive history of 'hashtag activism'", *The Washington Post* , May 8, 2019 年 2 月 20 日閲覧。

15 群衆と身体性については、Butler, Judith（2015）*Notes Toward a Performative Theory of Assembly.*, Cambridge, Mass.: Harvard University Press, pp. 7-9. なお Hardt, Michael and Negri, Antonio（2017）, *Assembly - Heretical Thought*, New York: Oxford University Press の表紙画は、まるで集会のようにミツバチを群れ集まる生物の象徴として使用している。群れ集まるのは、SNS をコミュニケーション手段として、市民全体として民主的に何かを作り出すためだからである。

16 Scott, Catherine（2012）"Future of Feminism: The Hashtag Is Mightier Than the Sword", *Ms. Blog magazine, March* 23, http://msmagazine.com/blog/2012/03/23/future-of-feminism-the-hashtag-is-mightier-than-the-sword/ 2019 年 2 月 20 日閲覧。